

「教会の一致、霊的成長のために」

ローマ15：1－6

堀田修一 24・10・6

序：パウロは、これまでキリスト者の確信と他者に対する愛の配慮について語って来ました。聖書が明確にしてない事でそれぞれの判断、意見が許される自由と個人的に持って良い確信は、他者に対する愛の配慮（意見が違ってても人格を尊敬し合う）として働かせる時、主にある一致へと発展していきます。

I 他人の弱さを担う

1. 「私たちの力のある者たちは、力のない人たちの弱さを担うべきであり、自分を喜ばせるべきではありません」：1。私たちは、弱い時に、主から力、助けをいただいている。主は弱い私たちの心を強めて下さると同時に、主は弱っている私たちのもとに、弱さを担う、助ける人々を遣わして下さる。私たちの人生では、私たちが強められ力がある時もあれば、弱い時もあります。お互い皆同じです。私たちは、まず主に自分の弱さを担っていただき、お互いの弱さを担い合い、支え合いましょう。私の人生を振り返る時に、私が弱い時に主は私を支え、私の弱さを担う人々をそばに置かれました。主と多くの人から弱さを担っていただいた私を主は、弱っている人々のところに私を遣わして下さり、主もともにおられ、弱っている人の弱さを担う器とされて来ました。ある方の証し

2. 「自分を喜ばせるべきではありません」とは、自分の事しか考えない自己中心で自分を喜ばせる事ばかり考え、他の弱い人を少しも助けようとしなないことを示します。他人の弱さを担うと同時に、自分も健全に愛し、ある事を成し遂げた後に、自分を健全に休ませたり、健全な楽しみの時間、小さなごほうびを自分に与えることを禁じているのではありません。「私たちにすべての物を豊かに与えて楽しませて下さる神」（Iテモテ6：17）。自分を自己中心の愛ではなく自己受容の健全な愛で愛し自分を健全に大切にしている人は、他人を大切にする人になります。「あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい」（マタイ22：39）。「自分の妻を愛する人は自分自身を愛しているのです」（エペソ5：28）。

3. 「私たちは一人ひとり、霊的な成長のため、益となることを図って隣人を喜ばせるべきです」：2。

「隣人を喜ばせ」とは、他のキリスト者にこびへつらうことや人の歓心を買うことではなく（ガラテヤ1：10）、その人の益（人々の救い、霊的成長）となるようにすることです（Iコリント10：33）。「あなたがたの愛が、知識とあらゆる識別力によって、いよいよ豊かになり、あなたがたが、大切なことを見分けることができますように」（ピリピ1：9，10）。益となる事、大切な事の具体的な内容が、「霊的成長」。この原語は、個人としての霊的成長だけでなく、教会としての成長・建て上げという意味がある。このみことばを、個人的な教訓としてではなく、教会的勧めという視点から理解したい。

Ⅱ キリストの先行的な愛

「キリストもご自分を喜ばせることはなさいませんでした。むしろ、『あなたを嘲る者たちの嘲りが、わたしに降りかかった』と書いてあるとおりです」：3。

1. キリストはご自分を喜ばせず、私たちが愛し私たちの罪の為に十字架で嘲られ、死ぬ道をえられました→「キリストも、あなたがたのために苦しみを受け、その足跡に従うように模範を残された。キリストは罪を犯したことがなく、その口には欺きもなかった。ののしられても、ののしり返さず、苦しめられても、脅すことをせず、正しくさばかれる方にお任せになった。キリストは自ら、十字架の上で、私たちの罪を身に負われた。それは、私たちが罪を離れ義のために生きるため。その打ち傷のゆえに、あなたがたは癒された。あなたがたは羊のようにさまよっていた。しかし、今や、自分のたましいの牧者であり監督者である方のもとに帰った」(Iペテロ2：21-25)。

2. 「あなたがたは同じ思いとなり、同じ愛の心を持ち、心を合わせ、思いを一つ（主と人を愛する思いの一致）にして私の喜びを満たしてください。何事も利己的な思いや虚栄からするのではなく、へりくだって、互いに人を自分よりすぐれた者と思いなさい（人格を尊敬し合う）。それぞれ自分のことだけではなく、ほかの人のことも顧みなさい。キリスト・イエスのうちにあるこの思い（私たち人間の事を顧み救いの為に十字架で死なれた愛）を、あなたがたの間でも抱きなさい」(ピリピ2：2-5)。

Ⅲ 神が喜ばれる教会の一致

1. 「かつて書かれたもの（旧約聖書）はすべて、私たちが教えるために書かれました。それは、聖書が与える忍耐と励ましによって、私たちが希望を持ち続けるためです」：4。旧約聖書の預言はすべてキリストを指し示していますが、それだけではなく、旧約の多くの出来事（弱さや罪のある人々を忍耐し立ち返らせ励まされる）やみことばも、キリスト者に対して神の時を待つ「忍耐と励ましを与え（神は試練の中でもいつもあなたとともにおられると）」、私たちが苦しみ、試練の中でも神はすべてを益とされる、神は決して見捨てられない、祝福の御計画を成就されるという希望を持ち続けるように導くのです。

2. 「どうか、忍耐と励ましの神があなたがたに、キリスト・イエスにふさわしく、互いに同じ思いを抱かせてくださいますように」：5。神は私たちに忍耐（神の時を待ち、今なすべきことをなす。主にどこまでもついて行く）と励まし（あなたが良くできた時もあなたを励ますと同時にあなたの成績が悪い時も私はあなたを愛する。私の愛は変わらないよ。私の目にあなたは高価で尊い。多くの自死、自殺を考える人々が、死の前に、自分の存在を喜び愛し、あなたは高価で尊いと本気で語りかけられ神に出会うなら多くの人が神と共に生きる人生を選ぶでしょう）を与えられます。「キリスト・イエスにふさわしく（に従って）、互いに同じ思い（キリストが愛されたように互いに愛し合う、キリストを中心に一致する）を抱かせてくださいますように」：5。「同じ思いを抱く」の原語は「同じことを考える」。同じ考え方をするという意味ではなく、意見が違ってても人格を愛し尊敬し合い、「キリストを愛する同じ思い」で主の教会の一致を保ちましょう。

3. 「そうして、あなたがたが心（まず神に愛され神と隣人を愛する心）を一つにし、声を合わせて、私たちの主イエス・キリストの父である神をほめたたえますように」：6。私たちが、まず

神に愛され神と隣人を愛する一致の後には必ず神の祝福があり、福音宣教が大きく進展します。昔も今も。主を中心とした一致こそ祝福の源泉であり、発展の原動力。証し：私も約45年、教会形成に仕えてきましたが、正に経験してきた祝福は、教会が主にあって一致している時に主の教会は成長して来たという恵みです。この6節の大切さは、神への感謝と賛美においても、私たちは心を一つにし（主の教会の一致）、神をほめたたえます。この感謝と賛美における一致こそ、主にある一致の最も深い、確実な基盤です。一つのからだなる主の教会の礼拝で心を一つにして神を賛美することが主にある一致をますます堅くします。本日の説教に一致する応答の賛美をこの後、心一つにして捧げましょう。教会福音讃美歌452→

- 「1. キリストの前に 喜び集まり、キリストの愛を 感謝して歌おう。
キリストに倣い 誰をも隔てず 互いに励まし 互いに仕えよう。
2. キリストの為に 自分を捧げて、キリストの道を 助け合い進もう。
キリストは弟子の 足さえ洗われ、自ら仕えて 模範となられた。
3. キリストに頼り かしらと崇めて、キリストに応え 真実に生きよう。
キリストの恵み この世に伝えて、互いに祈ろう、御国が来るまで。」